

報道関係者各位

高崎ターミナルビル株式会社×高崎商科大学

「教育活動及び社会貢献活動に係る連携に関する協定」締結について

高崎商科大学地域連携センター（所在地：群馬県高崎市、学長：瀧上勇次郎）（以下、「本学」と言う。）は、高崎ターミナルビル株式会社（所在地：群馬県高崎市、代表取締役社長：橋本勇一、JR東日本グループ）（以下、「同社」と言う。）と連携し、地域活性化事業を展開しています。

同社は、高崎駅構内にある群馬ブランドを発信するコンセプトショップ「群馬いろは」を運営し、県内の魅力あふれる特産品等の販売・PRを行っております。

本学の学生は「群馬いろは」にて商品を販売する提携農家においてボランティアを実施し、同社との協働により地域活性化を実践しています。

昨年度は「孀恋キャベツをPR！！孀恋キャベツの収穫・運搬・販売ボランティア」（別紙1）と、県内の農家を応援する「県内農家応援プロジェクト」（別紙2）を実施。これらの活動は、コロナ禍により課外活動の数が減り、授業等も遠隔になる中、学生にとって貴重な体験型学習の機会となりました。

今年度は6月に榛名町の「梅収穫ボランティア」を実施。学生は収穫や商品提案から梅に関する知識を深めることはもちろん、訪問させて頂いた農家さんが実践する「農業の6次産業化」についても間近で知り、多くのことを学習しました。

地域連携センターは同社と本協定を締結することにより、連携をより一層強化し、学生の学びの機会創出ならびに地域活性化事業を継続して実施いたします。

高崎ターミナルビル株式会社、高崎商科大学 連携協定調印式について

高崎商科大学は、高崎ターミナルビル株式会社（代表取締役社長 橋本勇一）と「教育活動及び社会貢献活動に係る連携に関する協定書締結式」を下記の日時で執り行います。本協定は、本学と同社が教育活動及び社会貢献活動に係る連携のもと、活力ある豊かな地域社会の形成と発展、振興、教育の質向上による地域への人材輩出に寄与することを目的としています。

■日時：2021年9月16日（木）10時～10時30分

■会場：高崎商科大学（高崎市根小屋町741） 4号館SKY433教室

■高崎商科大学地域連携センター

高崎商科大学地域連携センターは、2013（平成25）年文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択され、2018（平成29年）をもちまして補助事業は終了しましたが、COC事業を継承する中で、地域が抱える課題解決につながる人材や情報・技術が集まる場所として、地域の中心的存在となるべく活動を推し進めています。事業推進にあたり、上信電鉄沿線市町村や企業と連携し、本学版COC事業「地と知から（価）値を創出する地域密着型大学を目指して」を通して、「教育」「研究」のチカラを強化し、地域課題解決に寄与する活動を進めています。

<本件に関するお問い合わせ・取材のご依頼など>

高崎商科大学・高崎商科大学短期大学部 地域連携センター（担当：加島、伊勢亀、山田）

〒370-1214 群馬県高崎市根小屋町741番地 TEL：027-347-3350(直通)



嬢恋キャベツをPR！！嬢恋キャベツの収穫・運搬・販売ボランティア



嬢恋キャベツを収穫する学生



「群馬いろは」にて収穫したキャベツを販売
群馬テレビの取材を受ける学生

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日付：2020年9月22日 場所：群馬県嬢恋村 高崎駅群馬いろは
参加学生：短大生10名 連携先：高崎ターミナルビル株式会社

【目的】

全国有数のキャベツ産地で知られる群馬県の嬢恋村。生産現場は人手不足により外国人労働者が欠かせない存在でしたが、2020年はコロナ禍の影響でその多くが来日できない状況となっていました。そこで、農家支援ならびに学生の体験型学習機会の創出を目的に、高崎駅のショッピングセンターや駅ナカ事業を展開する高崎ターミナルビル株式会社と地域連携センターが連携し、県内農家応援プロジェクトを実施しました。高崎ターミナルビルは、群馬ブランドを発信する高崎駅構内にあるコンセプトショップ「群馬いろは」を運営し、県内野菜のPRも行っています。

【活動内容】

早朝、6時30に大学を出発し、大学のバスに乗り9時に嬢恋村に到着。農家の方より、嬢恋村の斜面がキャベツの栽培に適していることや収穫方法について、丁寧に教えていただきました。そして、学生は汗を流しながらぎっしり中身の詰まった嬢恋キャベツ210個を収穫しました。午後は、高崎ターミナルビルが運営する「群馬いろは」にて特設販売ブースを設け販売。使用した販促物は、事前に高崎ターミナルビル社員と学生がZoomによるワークショップを行い、そこで作成したものを使用しました。キャベツ210個は、朝採れ嬢恋キャベツをPRする学生の積極的な声掛けにより、その日のうちに完売しました。

【成果・課題】

【成果】
コロナ禍によりボランティアや地域連携活動の多くが中止となる状況において、本プロジェクトは、学生にとって、体験型の貴重な学びの機会となったこと。

【課題】
嬢恋キャベツの収穫は通常、早朝5時頃から開始されます。今回は大学を6時30分に出発し、到着は9時。本来より遅い時間のスタートとなっていましたので、次回は前泊し、本来の時間から収穫を行いたい。



「県内農家応援プロジェクト」野菜の収穫と売場づくり



収穫した野菜を梱包



「群馬いろは」にて学生が売り場を作成

【実施日・場所・参加学生・連携先等】

日付：2020年11月28日 場所：群馬県前橋市 高崎駅群馬いろは

参加学生：大学生1名、短大生4名

連携先：高崎ターミナルビル株式会社、ワタナベファーム（前橋市）

【目的】

現在の農業従事者の平均年齢は60歳を超えており、労働力不足が大きな問題になっています。そこで、学生が野菜の収穫・包装・梱包までを行い、農家におけるボランティアを実施しました。収穫した野菜は高崎ターミナルビルが運営する「群馬いろは」で販売。学生は現場で得た野菜の魅力やPRポイントを店舗で紹介し、県内野菜のPRと販売促進につなげることを目的としました。

また、ボランティア実施先のワタナベファームさんは野菜の生産・加工・販売まで行っており、農業の6次産業化を学ぶ機会としました。

【活動内容】

前橋市粕川町のワタナベファームさんにてボランティアを実施。学生はぎっしり中身の詰まった白菜、大きな葉のブロッコリー、初めて見るちぢみほうれん草など、多くの種類の野菜を丁寧に収穫しました。収穫後は、野菜が傷つかないように細心の注意を払いながら包装・梱包まで行いました。

午後には収穫した野菜を高崎駅「群馬いろは」にて販売。売り場には、学生が考えた野菜を活用したレシピや、農家から聞いた野菜の魅力を書いたPOPを掲示。販売促進につながる売り場づくりを担当しました。

【成果・課題】

【成果】野菜の知識を深め、農業の6次産業化についても間近で学習することができ、貴重な体験学習の機会となりました。

【課題】1日で野菜の収穫・包装・梱包、売場づくりまで行うことから、1つのことに費やす時間が少なくなってしまったことが課題。次年度は1日かけて収穫を行う、野菜の特徴を調べ、野菜の市場調査等を実施してから売場づくりを行うなど、1つ1つの事にじっくり時間をかける運営方法も検討したい。